

企画展「横浜絵の深層－ジャンルか、イメージか、それとも輸出美術か」 及び関連イベント開催のお知らせ

横浜市歴史博物館では、企画展「横浜絵の深層－ジャンルか、イメージか、それとも輸出美術か」を開催します。開港以来、海外との窓口として多様な美術表現が横浜では生まれました。本展は、^{ごせだ}五姓田派を中心に幕末から明治期に登場した「横浜絵」の具体像を、近年注目される^{かさぎしろうきち}笠木治郎吉らの絵画作品や工芸品への広がりから紹介します。

展覧会概要

- 【会 期】 令和 8 年 9 月 5 日 (土) ～10 月 18 日 (日)
 【開館時間】 9 時～17 時 (券売は 16 時 30 分まで)
 【休 館 日】 月曜日 (ただし 9 月 21 日、10 月 12 日は開館)、9 月 24 日 (木)、10 月 13 日 (火)
 【会 場】 横浜市歴史博物館 企画展示室
 【主 催】 (公財) 横浜市ふるさと歴史財団
 【共 催】 神奈川県立歴史博物館、横浜市教育委員会
 【後 援】 朝日新聞横浜総局、日本経済新聞社横浜支局、神奈川新聞社、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、NHK 横浜放送局、t v k (テレビ神奈川)、FM ヨコハマ
 【観 覧 料】 一般 1,000 円 (800 円)、高校・大学生 700 円 (560 円)、小・中学生/横浜市内在住 65 歳以上 500 円 (400 円)
 ※企画展示室のみ。()内は団体 20 名以上の料金。

【開催趣旨】

開港以来、横浜は海外との窓口として、文化・技術・思想人が行き交う都市として発展してきました。そこで生まれた表現には、油彩画、水彩画、横浜浮世絵、漆器、陶磁器、写真、そして「横浜絵」と呼ばれる絵画などがあります。これらは国内にとどまらず、外国人向けの土産物や輸出美術として広く受容されました。本展では、この地で生まれた造形表現を「横浜絵」をキーワードに紹介します。幕末から明治初期、西洋絵画技法に刺激されて生まれた「横浜絵」の中心には五姓田派がいましたが、その表現技法は、周辺の画家たちへと広がり、主題、作風、技術は徐々に多様化し、水彩画の隆盛や輸出工芸の下絵制作へと展開していきました。こうした造形作品に関わった横浜で活動した画家たちの作品は、徐々に明らかになりつつあります。本展では、知られざる作家や作品も含めてとりあげ、あわせて近年注目を集める横浜の画家・笠木治郎吉についても紹介します。

関連イベント

講演会やギャラリートークなどの関連イベントを実施します。詳細は当館ホームページをご覧ください。

◆連続講演会【横浜絵の深層を知る】※事前申込制 (先着)

一步深く知る。学芸員によるここだけの特別講座です。

日時：①9月12日(土) ②9月22日(火・祝) ③9月26日(土) ④10月3日(土) 各日14時～15時30分

講師：①鈴木愛乃(神奈川県立歴史博物館 学芸員)、②角田拓朗(神奈川県立歴史博物館 主任学芸員)、

③猿渡紀代子(元・横浜美術館 首席学芸員、大佛次郎記念館 特任研究員)、④吉井大門(当館 学芸員)

会場：横浜市歴史博物館 講堂 参加費：各回900円、全4回一括3,500円 定員：各回150名(先着)

◆ギャラリートーク※事前申込不要

担当学芸員が展示のみどころを解説します。※各日14時から40分程度

日程：9月6日(日)、19日(土)、23日(水・祝)、10月4日(日)、10日(土)、17日(土)



「横浜絵の深層」の主なみどころ

① 初期－とその広がり－肖像画、風俗画を紹介

「横浜絵」ということばをご存知でしょうか。その言葉を耳にしたとき、具体的にどのような作品を指しているのか、正確にイメージできる人は多くないかもしれません。この「横浜絵」の展開において最初に関わったのが、初代五姓田芳柳（1827-92）をはじめとする五姓田派の画家たち、そして、その息子である義松でした。和洋融合の肖像画や風俗画が「横浜絵」であり、その需要は国外のみならず国内へも広がっていきました。



初代五姓田芳柳《西洋老婦人像》
絹本・水彩 慶應年間～明治初頭
神奈川県立歴史博物館



矢内舎柳村《和装姿の米婦人》絹本・着色
明治時代 神奈川県立歴史博物館
(丹波コレクション)



五姓田派《「仇討ち図」碁太平記白石噺より》麻布・着色 明治時代初期頃 星野画廊

② 変化する「横浜絵」

－明治期のみずみずしい水彩画への展開を紹介

肖像画、風俗画に加えて明治20年代中頃からは、国内における水彩画隆盛期や来日外国人も増え日本の風景や風俗を情緒的に描いた水彩画作品が「横浜絵」の主力となっていきました。

また、「横浜絵」に関わった幻の画家笠木治郎吉の初出品作品も多数紹介します。



作者不詳《川辺の村》紙・水彩 明治時代後期 ギャラリーなかむら



笠木治郎吉《蟬をとる子どもたち》紙・水彩 明治時代後期 個人



作者不詳(Y. Ito)《紅葉の溪谷》紙・水彩 明治時代後期 星野画廊



笠木治郎吉《子守をする姉弟》紙・水彩 明治時代後期 かさぎ画廊〔横浜市歴史博物館寄託〕

③ 拡張する「横浜絵」

－絵画から工芸への広がりを紹介

幕末から明治期の日本は、西洋の新しい視覚メディアが浸透し表現形態が変化した時期です。

本展では、広義の「横浜絵」の潮流として、外国人好みの日本画や輸出用工芸品の下絵などにみられるその様相を紹介します。



初代宮川香山《高浮彫長命茸採取花瓶》明治時代前期 田邊哲人コレクション〔神奈川県立歴史博物館寄託〕



渡辺幽香《長命茸採取下絵》紙・鉛筆 明治20年(1887)頃 神奈川県立歴史博物館

一般公開に先立ち開催前日の9月4日(金)14時から報道関係者向けに内覧会を開催します。担当学芸員が展覧会の見どころをご案内いたします。詳しくは追ってお知らせいたします。

お問合せ先

横浜市歴史博物館 TEL 045-912-7777

副館長: 古屋紀之 展示担当: 吉井大門 広報担当: 阿諏訪青美・鶴沢倫子・神谷量子・仲泉剛